

## 令和5年度学校評価の結果と考察

- ・ 348 世帯中、187件のご回答をいただいた（回答率53.7%）。
- ・ 設問1では、回答いただいた187世帯の児童の在籍する学年を回答いただいた（複数回答）。各学年の在籍児童数と回答数及び回答率は下表のとおり。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	学年無記入	全体
回答数 (人)	42	53	32	36	34	30	8	235
在籍数 (人)	77	96	81	82	61	66		463
回答率 (%)	54.5	55.2	39.5	43.9	55.7	45.5		50.8

- ・ 設問2～21では、保護者から見た「我が子」と「寺崎小の児童」を分けて評価していただいた。
- ・ 評価方法（基準）について、昨年度まではA（肯定的）～D（否定的）の4段階と、学校や児童の実態が分からない（評価不能）保護者が一定数いることを考慮し、「E 評価できない」を加えた。
- ・ 以下の各設問の肯定的回答（A、B）の割合は、総回答数235件から「E 評価できない」の数を差し引いたものです。
- ・ 設問の右側（今年度、前年度）の数値の単位は%。百分率は小数第2位を四捨五入して表記した。
- ・ **赤**の数値…「今年度」80%に満たない、「前年比」4%以上の増減

### 【保護者から見た我が子の様子】

No	設 問	前年度	今年度	前年比
2	お子さんは、楽しそうに学校に通っている。	93.2%	95.0%	+1.8
3	お子さんは、友達と仲よく生活している。	96.6%	98.0%	+1.4
4	お子さんは、「授業が楽しい」と言っている。	79.0%	81.3%	+2.3
5	お子さんは、気持ちのよいあいさつや返事をしている。	75.7%	<b>77.4%</b>	+1.7
6	お子さんは、ご家庭でも学習や家の仕事（手伝い等）に積極的に取り組んでいる。	67.8%	<b>72.8%</b>	<b>+5.0</b>

### 【保護者から見た寺崎小の子どもの様子】

No	設 問	前年度	今年度	前年比
7	寺崎小の子どもたちは、楽しそうに学校に通っている。	95.4%	90.7%	<b>-4.7</b>
8	寺崎小の子どもたちは、友達と仲良く生活している。	96.4%	93.2%	-3.2
9	寺崎小の子どもたちは、「授業が楽しい」と言っている。	81.3%	<b>66.7%</b>	<b>-14.6</b>
10	寺崎小の子どもたちは、気持ちの良いあいさつや返事をしている。	74.2%	<b>73.0%</b>	-1.2

- ・ 「授業が楽しいか」を問う設問（No4、No9）において、回答が対照的な結果となった。No4の問いに対しては、昨年より2.3ポイント上昇し、81.3%が肯定的な回答があった。しかし、No9の問いに対しては、昨年より14.6ポイントの減少で、わずか66.7%の肯定的な回答であった。保護者や地域の方にとって、寺崎小全体の子供の様子を見て評価する機会は、学校行事や年3回の授業参観が主なものとなる。この結果は、子どもたちの活躍する様子、いきいきと活動する様子を十分にお見せすることができなかったものとする。今後、コロナ禍が明けて、子ども主体の学習活動を、保護者や地域の方に情報発信していきたい。

- ・ 挨拶や返事に関する設問（No5、No10）については、「我が子」に対する肯定的な回答が1.7ポイント微増、「寺崎小の子どもたち」に対する肯定的な回答が-1.2ポイント微減であった。挨拶は、学校内だけではなく、家庭、地域での取り組みも重要であると考え。家庭・地域と連携して、大人からも子どもからも明るい挨拶が行き交う寺崎小学区を目指したい。
- ・ 設問6「学習や家の仕事（手伝い等）に積極的に取り組んでいる」かについては、前年度-8.7ポイントであったが、今年度は+5.0ポイント盛り返した形となった。コロナ禍が明けて、子どもたちの活動が再び活発になった現れとも捉えることができる。実生活にいかせる教育活動の重要性と期待感が、今後も高まることが予想される。引き続き、各学年の発達の段階に応じた家庭での役割や、家庭学習の大切さについて、家庭とも連携しながら指導していきたい。

#### 【教職員の取り組み】

No	設 問	前年度	今年度	前年比
11	教職員は、子どもの基礎的な学力が身に付くよう指導している。	91.0%	86.7%	-4.3
12	教職員は、子どものよさを認め、ほめて励ましている。	90.4%	83.6%	-6.8
13	教職員は、子どもに応じた指導や配慮をしている。	87.3%	81.4%	-5.9
14	教職員は、いじめや仲間はずれをしない学級づくりをしている。	90.2%	84.8%	-5.4
15	教職員は、たくましい子どもに育つよう体力づくりの指導をしている。	82.6%	78.6%	-4.0
16	教職員は、子どもの発育や健康、衛生について配慮している。	93.8%	86.3%	-7.5

- ・ いずれの項目においても、-4.0ポイント以上の結果となった。
- ・ 特に、No15の体力づくりにかかる設問については、肯定的な回答が4.0ポイント下がり、80%を下回った。この項目は、前年度までに2年連続2.0ポイント程度の減少を続け、更に今年度4.0ポイントの減少があった。今年度はコロナ禍が明け、児童の体力向上が大きな目標の一つではあったが、この1年では、目に見えるような成果が得られなかった。今年度、コロナ禍が明けたものの、運動会や4年ぶりに再開した水泳指導など、保護者が期待していた教育活動ができていなかったと考える。
- ・ 引き続き感染予防を図りながら、更なる体力向上に取り組んでいく必要がある。

#### 【学校経営全般】

No	設 問	前年度	今年度	前年比
17	学校は、学校教育目標の具現化に向けて効果的な教育活動を実践している。	83.5%	77.7%	-5.8
18	学校は、新型コロナウイルス等感染予防と学習機会の保障の両立に向けて、適切に教育活動を進めている。	89.5%	89.0%	-0.5
19	校舎内・校庭はよく整備され、子どもが学習や生活をしやすい環境となっている。	93.1%	89.8%	-3.3
20	学校は、学校(学年)だよりやホームページ、メールなどで教育活動についての情報発信に努めている。	89.8%	89.5%	-0.3
21	学校は、保護者・地域の願いを受け止める努力をしている。	85.6%	83.8%	-1.8

- ・ 設問17「学校教育目標の具現化に向けて効果的な教育活動を実践している」かでは、肯定的な回答が、前年度-4.1ポイント、今年度も-5.8ポイントとなり80%を下回った。学校教育目標と、日々の教育活動との関連性については、保護者や地域の方にとって分かりづらいものであるかもしれない。しかしながら、2年連続の減少は、学校の教育活動の効果的な実践につながっていないと見取することもできる。一方で、学校側としては、一定の成果も感じているため、引き続き、課題を整理しながら、学校教育目標に即した効果的な教育実践を積み重ねていきたい。